

平成29年度 小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価書

小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価委員会

1 学校関係者評価委員会の総評

- 全体的に大変落ち着いており、意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。学習形態もグループ学習などが多く取り入れられており、活発に意見交換する姿が見られた。また、歴史館の出前授業等、外部人材を活用し児童の興味関心を高め、楽しく学習に取り組むための工夫がなされていた。掲示されているプリントや作品、ノート等にも、児童一人一人の努力や成果が表れていた。学力面での個人差については、今後も家庭と連携しながら、地道に繰り返し個別指導を行ってほしい。
- 保護者の生活習慣が変わり、あいさつ、規範意識、思いやり、言葉づかいやマナーの在り方など、学校で指導することが増えている。共働き家庭が増え、生活にゆとりがなくなりつつあることが学校アンケート等からも感じられるが、家庭との連携の在り方を工夫しながら今後とも子どもたちを指導して行ってほしい。

2 分野別評価

分野	学校の取組に関する評価と今後の改善点
学習指導の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の自己評価から、先生方が、子どもたちの考える力、判断する力、表現する力の向上を目指して授業に取り組んでいることが感じられる。「授業で『分かった・できた』と感じる児童」が87.1%、「書く・話し合う力がついてきたと回答する児童」が86%と昨年より増加していることから、教師の授業力向上が児童の学習意欲向上や学習内容の理解に表れているように感じる。 ○ 茨城県学力診断のためのテスト結果では、国語、算数を中心に昨年と比較して正答率に伸びが見られた。今年度の研修の成果をもとに、基礎基本の定着と、身に付けた知識や技能を活用する力の向上にさらに力を入れてほしい。 ○ 校外学習や外部講師の活用などを通して、児童の興味関心を高める工夫がなされている。また、グループ活動等を取り入れ、児童同士が互いに見合ったり聞き合ったりする場面が多く見られ、活発に活動する様子が感じられた。
温かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校生活が楽しい」と回答する児童が92.1%、保護者が94.2%と前年度より増加しており、児童と児童、児童と教師間の良好な人間関係のもと充実した教育活動が展開されていることが分かる。 ○ 集会活動を通して、児童の自主的・自発的な活動が推進されており、児童が自己有用感を高め、学校や学級への所属感を味わうよい機会となっている。今後も、互いに思いやりの心を持ち、相手の立場になって考えられる児童の育成に努めてほしい。 ○ 今年度、児童会が中心となって進めてきた「堅倉しぐさ」の取り組みがすばらしいと感じた。4つのモデルから自ら行動規範を定め、1年間かけて名人を目指したことが学校全体のマナーアップにつながっていると感じた。
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者アンケートなどから、保護者との良好な関係が築けている様子が感じられる。今後とも学校の都合、親の都合を互いに理解しながら保護者との間に、何でも言える・何でも聞ける関係を保ち、学校運営を進めてほしい。 ○ ホームページの毎日の更新、学校便りの地区内回覧等、学校側からの情報提供は十分になされていることを感じる。今後も個人情報の保護に注意しながら「堅倉小学校の良さ」をどんどん発信してほしい。